

平成26年度
事業計画書

(平成26年4月1日から平成27年3月31日まで)

公益財団法人 国際科学振興財団

平成 26 度事業計画

(参考)

【定款（抜粋）】

・第 3 条（目的）この法人は、産業の発展と国民生活の向上に資するための研究開発及び交際交流等を実施するとともに、その促進を図り、もって学術文化及び科学技術の振興に貢献することを目的とする。

・第 4 条（事業）この法人は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 社会科学に関する研究開発
- (2) 物質科学に関する研究開発
- (3) 情報科学に関する研究開発
- (4) 生命科学に関する研究開発
- (5) 環境科学に関する研究開発
- (6) 前各号に掲げる研究開発に係る交際交流及び研究への助成
- (7) 研究施設貸与事業
- (8) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

2 前項の事業については、本邦及び海外において行うものとする。

(当財団が認定を受けた公益目的事業)

「認定法別表第一号 学術及び科学技術の振興を目的とする事業」

【公 1 事業】社会科学、物質科学、情報科学、生命科学及び環境科学に関する研究開発

【公 2 事業】社会科学、物質科学、情報科学、生命科学及び環境科学に関する研究開発への助成事業

【公 3 事業】研究機関相互に超高速通信ネットワークを構築・維持することにより、学術、科学等の研究開発を促進する事業

【公 1 事業】

(趣旨) 社会的重要度が高いと認められる研究開発テーマ及び複数の学問的領域にまたがる学際的テーマを対象として、高度かつ非収益的な研究開発を実施し、学術及び科学技術の振興を図る事業

1、社会科学（5テーマ）

- (1) ハイパーソニック・エフェクトの研究

財団主席研究員

大橋 力

財団主任研究員

河合 徳枝

- (2) 超高輝度 X 線発生装置製品化のための基礎研究

財団主席研究員

坂部 知平

財団研究員

坂部 貴和子

- (3) 新たな心理テストの開発ー産業人の心理ストレスの把握ー
とよさと病院附属筑波社会精神医学研究所
佐藤 親次
- (4) 新たな科学技術研究の仕組みと維持発展システムの研究
筑波大学産学リエゾン共同研究センター教授
上原 健一
- (5) 産学マッチングプラットフォームの研究開発
(株)産学共同システム研究所代表取締役
白井 達郎

2、物質科学 (6 テーマ)

- (1) 新規有機硫黄化合物の合成研究
財団主席研究員 赤坂 健
- (2) 環境工学に係わる形状記憶材料の基礎と応用に関する研究ー優れたダンピング材料を求めてー
財団研究員 大塚 和弘
- (3) 有機合成、有機分解反応における炭素ーヘテロ原子結合の導入とその反応に関する研究
財団主席研究員 古川 尚道
財団研究員 古川 真
- (4) メタマテリアルを用いた薄型電波吸収体の研究
防衛大学校講師 道下 尚文
- (5) 形状記憶合金の開発と基礎研究
筑波大学教授 宮崎 修一
- (6) 超高压力実験技術の高度化
筑波大学名誉教授 若槻 雅男

3、情報科学 (6 テーマ)

- (1) 移動通信用アンテナの研究
防衛大学校講師 道下 尚文

(2) 高誘電率材料を用いたマルチバンドアンテナの小型化に関する基礎研究

防衛大学校教授 森下 久

(3) -①航空機等のレーダー断面積の評価法の研究

(3) -②RFID用アンテナの研究

防衛大学校教授 山田 吉英

(4) -①半導体生産方式の研究開発

(4) -②21世紀型顧客ニーズ瞬時製品化対応新生産方式の研究開発

東北大学未来科学技術共同研究センターシニア

リサーチフェロー 大見 忠弘

東北大学准教授 白井 泰雪

財団研究員 仁平 繁通

財団研究員 橋本 圭市

4、生命科学 (25 テーマ)

(1) 細胞認識機能を有するバイオマテリアルの設計とその医学・薬学への応用

東京工業大学大学院特任教授

赤池 敏宏

(2) Gタンパク質の作用機構と疾患—Gタンパク質共役受容体の新しい制御—

東京大学講師

飯利 太朗

財団研究員

江田 真紀子

(3) 動脈硬化惹起性リポ蛋白であるレムナント代謝に及ぼす小腸コレステロールトランスポーター阻害剤エゼチミブの影響について動脈硬化易発病性モデル動物を用いた検討

防衛医科大学校

池脇 克則

財団研究員

菅沢 弥絵

(4) 外科学に関する研究—低侵襲手術の開発と教育—

東京慈恵会医科大学外科学講座統括責任者

大木 隆生

(5) 大進化の分子機構

財団主席研究員

岡田 典弘

財団研究員

相原 光人

- (6) 受精のしくみに関する研究—動物・植物を通じた受精の本質の概念的認識—
大阪大学遺伝情報実験センター特任研究員
岡部 勝
- (7) 胸腔内に手術時の前後に存在する癌細胞の生理学的動態の研究
筑波大学准教授 鬼塚 正孝
- (8) ネフローゼ状態で浮腫を合併した心不全患者に対する利尿薬の効果に関する臨床研究
阿部クリニック院長
海津 嘉蔵
- (9) 前立腺癌に関する研究
神戸市立医療センター中央市民病院泌尿器科
部長 川喜田 睦司
- (10) 集学的癌治療に関する研究
—ゲノム情報に基づいた「がん」の定量的悪性度評価—
社会保険下関厚生病院院長 佐々木 功典
- (11) 胃切除後障害の診断・治療体系の確立
東京慈恵会医科大学講師 中田 浩二
- (12) 感温難聴の基礎的研究—病態モデルを用いた蝸牛病態の解明—
筑波大学教授 原 晃
- (13) 脳外傷後高次脳機能障害における核医学的手法を用いた臨床研究
札幌麻生脳神経外科病院院長
飛驒 一利
- (14) 分子生物学的発生工学的なアプローチでの生命調節系遺伝子の機能発現と制御
—生活習慣病のエピゲノム応答ネットワークの解明—
筑波大学教授 深水 昭吉
- (15) バイオ人工肝臓の開発とその応用
東京慈恵会医科大学准教授
松浦 知和
- (16) 脳神経外科疾患に対する集学的治療の研究
筑波大学教授 松村 明

(17) 血管内治療に関する研究

広南病院血管内脳神経外科部長

松本 康史

(18) ヒト血管内皮細胞の増殖と機能の制御に関する研究

財団研究員

三井 洋司

(19) 放射光利用技術に関する研究

高エネルギー加速器研究機構教授

村上 洋一

(20) 外科腫瘍学ならびに胎児外科に関する研究

いわき明星大学学長

山崎 洋次

(21) 思春期女性への HPV ワクチン公費助成開始後における子宮頸癌の HPV16/18 陽性割合の推移に関する長期疫学研究 (第 I 期 ; 2012 年 4 月 - 2019 年 12 月)

筑波大学医学医療系産婦人科学系長

吉川 裕之

(22) -①いのちと遺伝子- 祈りや瞑想が心身に及ぼす影響の作用機序と分子基盤の解明 -

(22) -②,③「こころ」が遺伝子 ON/OFF に及ぼす影響に関する研究

- 快情動の脳内ネットワーク形成における分子基盤の解明 -

- 陽性感情の作用機序とその分子基盤の研究 -

心と遺伝子研究会

財団主席研究員

村上 和雄

財団研究員

堀 美代

財団研究員

坂本 成子

財団研究員

大西 英理子

東京家政大学准教授

大西 淳之

(23) 脳外傷後高次脳機能障害に対する Iomazenil SPECT 共同研究

東北大学教授

森 悦朗

5、環境科学 (1 テーマ)

(1) バイオエコシステムを活用した環境保全再生技法の開発

福島大学教授

稲森 悠平

【公2事業】

(趣旨)

- ・社会科学、物質科学、情報科学、生命科学及び環境科学に関する研究開発に関し、研究資金の支援を行い、研究開発への助成を行う事業
- ・学術会議を主催又は共催し、研究開発を支援することにより、学術、科学の振興を図り広く社会の利益に寄与する事業

1、国際会議等の開催

(1)「国際青少年サイエンス交流」(仮)の開催実施

(目的) 科学技術分野で世界各国の青少年と日本の青少年(高校、大学、大学院等)が直に交流する機会を創出し、研究のプロフェッショナルのアテンドにより、日本青少年の科学的関心の深化とグローバル意識の涵養を図ると同時に、来日青少年の日本の最先端科学技術への関心を高めることを目的とする。尚、開催の実施形態はケースに応じて主催もしくは共催

(内閣府への変更届出について)

公益目的事業2での「学術会議等の主催・共催」の当初認定内容では、現役の内外研究者、専門家の交流を主眼としているため、本件事業については、受益の機会を中高等教育機関の在籍者に拡大するとの理由をもって、理事会決議による変更の届出が必要(次ページ)

【公3事業】

(趣旨)

当財団と複数の研究機関を超高速で結ぶ通信ネットワーク（名称：「つくば Wide Area Network」。以下「つくば WAN」といいます。）を構築、運営管理をすることによって、研究機関同士のソフトウェアやデータベースを共に活用することを可能とし、高度な研究開発（共同研究開発を含む）を支援し、もって学術、科学の振興を図り、広く社会の利益に寄与する事業。

- (1) つくば WAN の参加研究機関相互間の接続
- (2) つくば WAN と他の研究ネットワークとの接続
- (3) 防災情報の共有等